

世界遺産アカデミー認定講師 File No.20

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご協力いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第20回のゲストはいつもご夫婦二人三脚で多くのご講演をされている広島県在住の西森正明(にしもり・まさあき)さんです。最近では、福岡市の北九州イノベーションギャラリーにて、2015年9月26日(土)、10月3日(土)、10月10日(土)に実施された全3回講演も成功裡に終わられました。

——物心ついた頃から知っていた世界遺産の魅力

私は広島市在住で、ふたつの世界遺産が身近な存在であることは、本当に幸いです。原爆ドームと厳島神社は世界遺産に登録される以前から観光名所で、修学旅行生や外国人観光客の方々を目にするのは当たり前前の光景です。原爆ドームの解体危機も騒がれましたが、広島市は世界平和発信の象徴として保存を英断。原爆ドームの前を通ると、それがたとえ日常風景であっても、いつも背筋が伸びる想いです。厳島神社も同様で、フェリー

の乗船中に、海に浮かぶ鳥居の姿が徐々に大きくなるにつれ荘厳な気持ちが湧き起こってきます。世界遺産との出会いは、もしかしたら、物心ついた時からの運命だったのかもしれませんが。ある時、紀伊國屋書店で歴史書を求めて散策していると、ふと目に留まったのは世界遺産検定のパンフレット。世界遺産検定の存在を耳にしたことはあったのですが、心突き動かされ、自宅に持ち帰り、パンフレットがポロポロになって穴が開く程、何度も何度も読み返しました。今となっては懐かしい記憶ですが、こんなにも検定試験に興奮させられたのは初めてのことでした。

地球規模の歴史や人類の歩みを考えさ



世界遺産・白川郷萩町をバックに城山展望台より望む

せられ、人類の宝物として後世に大切に伝え継ぐ、世界遺産。その中でも、日本の世界遺産として、『法隆寺』をお勧めします。創建された飛鳥時代に始まり、奈良時代、平安時代と、世界遺産を座標

軸で捉えるとしたならば、『法隆寺』を紐解くことで、時代背景がすっきりと整理されます。聖徳太子、蘇我氏、物部氏といった名立たる人物たちが登場し、仏教・律令国家という概念が流入し、日本は歴史的な大転換を迎えました。『法隆寺』は、日本初の世界遺産登録物件4つの中のひとつとなったことにも頷けます。また、海外の世界遺産に視点を移すと、ミラノの『サンタ・マリア・デッレ・グラーツ工修道院』に憧れがあって、一度は行ってみたいと切望しています。修道院内の壁面に描かれている、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」。この不朽の名作は文字通り壁面に描かれているので、自分が現地に赴かなければ観るこ

とができません。以前観た紹介DVDに収録された観光客インタビューでも、「死ぬまでに一度は観ておくべき絵だ……」と、感動の度合いが半端ではありませんでした。それ以来ずっと、私の血を騒がし続けているのです。そして、忘れてはならないのは、今年新規登録された『明治日本の産業革命遺産』。シリアル・ノミネーションであり、重工業分野における産業遺産として、我が国初の登録となりました。非公開となっている構成資産もあり、保存と観光の融合をどのように調整していくのか、日本の世界遺産の新たな出発に注目しています。

——世界遺産を伝えることを使命感に

認定講師の活動としては、これまで広島市内の公民館や市民大学などで講演してきました。やはり初めての講演は強く印象に残っています。世界遺産検定3級を取得し、2級受検に備えていた頃です。広島大学より、医学部保健学科での特別課外授業への講演依頼をいただきました。当時はパワーポイントも用いず、世界地図を持参して熱弁を奮いました。3級に認定された時から、“世界遺産から学ぶこと”を広くお伝えしたいと、ある種の使命感が芽生えていましたので、この講演は絶好の機会だと感じま

した。私は講演前に参加者の皆さんに向けて必ず約束することがあります。「目の合っていない人を当てることがあります」と。そのせいか、一番前に座っていた女子学生が終始食い入るような眼差しで聴講していた様子が鮮明に思い出されます。約束通り、彼女を指名はしませんでした(笑)。また、質問タイムでは、とある学生から、アルタミラ洞窟やラスコー洞窟の壁画の話題が出て、驚きました。話を聴いてみると、高校で世界史Bを選択していたとのこと。聴取者にも色々な方々がいるのだと、身の引き締まる思いがしました。その後、おかげさまで、多方面からご講演依頼をいただくようになり、広島市社会福祉協議会・老人

大学では、350名収容の大講堂で講演し、思わず武者震いしてしまったほどです。

講演会の後で聴取者の方から頂戴した、「先生が話されたようなことを知っていたら、もっと歴史好きになっていたかもしれません」との感想は、身に余る言葉でした。社会科教師はあらゆる学習範囲を網羅しなければなりません、私は大好きな世界遺産をピックアップしてお話しているに過ぎません。今後も、世界遺産の時代背景を私なりの言葉で正確に楽しくお伝えする姿勢を持ち続けながら、広島市内の公民館や小中学校での講演数を増やしていきたいと思っています。とりわけ、昨今の学校教育現場では、ゆとり教育からの方針転換の影響も

あって、外部招聘講師による特別授業の実施が難しい状況にあります。世界遺産を通じた国際平和を子供たちに伝えていきたいです。また、地元タウン誌で告知案内されている有料市民講座や、各地で講師を募集中の企画などにも活動の幅を拡げていこうと考えていますし、過去の講演先や多方面からの講演依頼についても、聴取者がひとりだったとしても、喜んでお引き受けしたいです。講演依頼が舞い込むのはいつも突然のこと。社会から自分が必要とされていることの喜びは何事にも代え難く、「明るく、楽しく、熱心に」をモットーに、邁進していきたいと思っています。